

1988	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	•	•	•	•	•	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	•	•	•	•	•	•

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意。警戒。防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき
 防災広報紙

NO.

41

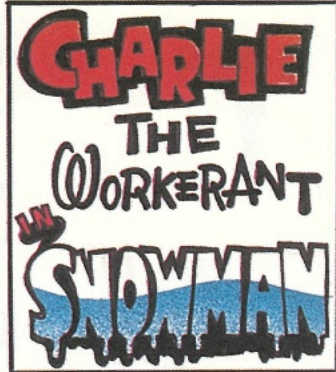
昭和63年1月1日発行
 発行所 川崎市
 編集所 土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.(044)200-2111内線2841

あけましておめでとうございませう。

旧年中は川崎市の防災に格別の「尽力をいたいただきありがとうございました。本年もまたチカラを合わせて、地震や風水害に負けない川崎市をつくってゆきませう。昭和56年に定められた、毎月15日の「川崎市民地震防災デー」も、おかげさまで8年目を迎えます。広報車や清掃車としてヘリコプターの広報、またバスの車内放送などで「市民地震防災デー」を耳にしたら、火の元の点検や非常持出品を確かめてみるなど、今年も小さなところから備える気持ちを育ててゆくようお願いいたします。

昭和63年 元旦 川崎市





ひとりひとりの意識が

川崎を守ります。

市民地震防災デーは、いつ起こるかかわからない地震に備えて、月に一度毎月15日に家中の安全を確認し、家族で話し合いをしておきましょう、という目的で昭和56年4月に定められました。

地震が起っても冷静に行動できればよいのですが、実際に大地震に見舞われ、家の中は

毎月15日の市民地震防災デーには、次のようなところを見直しましょう。

●火の元の安全を確かめる

- 火を使う器具に故障はありませんか
- 火を使う器具のまわりの整理整頓はしてありますか
- プロパンガスボンベは、くさりで固定されていますか
- 消火器はすぐ使えるようになっていますか



●家具などが倒れないように点検する

- 家具などは倒れないように固定してありますか
- たなから物が落ちないようにしてありますか
- 出入口は確保してありますか
- 小さな子供や病人、お年寄りがある部屋は安全にしていますか



●わが家の備蓄品・非常持出品を確かめる

- 食料・飲料水・燃料は3日分ぐらい確保してありますか
- 非常持出品はいつでも持ち出せるようになっていますか
- 赤ちゃん、病人、お年寄り用のものは準備してありますか



●家族みんなで防災について話し合

- 地震が起きたらどうしますか
- 警戒宣言が出たらどうしますか
- 避難する場所はどこか、という道順がありますか
- わが家で一番安全な場所はどこですか



昼と夜の家族の行動は

地震が起こったとき、家族が全員そろっているとは限りません。火の始末、非常用品の持ち出しなど、家族の役割分担は、昼と夜で違ってきます。また、電話が不通で連絡がとれないことも考え、どのように行動するのかあらかじめ話し合っておきましょう。

わが家の地震対策

④

体験談 41

地震

日本海中部地震「先生、地震だ！」から

鯉ヶ沢町立建石小学校 五年当時 三橋俊一さん

今まで何事もなかった体育館が、急にぐらぐらとゆれました。足元がゆれ、かべにかけてあった物や、周りにあった物が落ちてきました。

あの日は、五月二十六日、四時四十分の授業のことでした。ちょうど運動会の練習を体育館に集まってしていたところだったのです。

机のようなくれる物もないので、急いでしゃがんでおさまるのをまわって、校庭にひなんしました。でも、ひびがはいっていたのでグラウンドにひなんしたのです。弁当を取りにいった人が、ぼくの机がころんでいた、といったのでいやな感じがしました。地震がとぎとぎくるのでおちついてご飯が食べられませんでした。

ごみ山からぼくの家を見わたりましたが、どの家もなんともなかったのにおどろきました。でも心の中では、とても心配で心配でたまりませんでした。遊んでいるときも家のことばかり考えていました。帰るときは、先生方が前後について帰りました。はきをはきなさいといっていました。九時

だんだん家が近づいてきました。「ドキドキドキ」。

心ぞうがはれつそうになりました。ようやくぼくの家が見えてきました。

ぼくの家は、割れたり、二階が落ちてきたり、天井がはがれたりして、家の中にもくつをはいたままであがなければならぬほどに壊れていました。

家の中に入ると中はめちゃくちゃで、冷そうがたおれたりしていました。親類の人や近所の親切な人たちが集まって手伝ってくれて、だいぶ片づきました。

でも夜になると、ガスもつかなく、ご飯したくもできないので親類の人がおにぎりやおかずを持ってきてくれました。

手伝いをしていたので、おにぎりをいっぱい食べました。ぼくは、あした、どうするのかなあと思いました。

ストーブがないので寒くて寒くてたまりません。家族みんなで今日の地震のことを話してみると、みんな、こんな地震はききたくないといっていました。九時

今考えただけで、おそろしくなるような地震でした。こんな地震は絶対に二度ときほしくないなあと思いました。

※日本海中部地震 昭和58年5月26日 午後0時0分18秒発生、震源 能代沖(約)km、深さ10km、マグニチュード7.1、死者10人、負傷者163人、津波による被害が大きかった。

自主防災組織等リーダー研修



昨年にひきつづき、自主防災組織等のリーダーの方々を対象に、防災についての研修会が各区毎に開催されています。今年には本市の防災事業の概要や7月に変更された避難場所についての説明等を中心として、防災対策全般にわたりご理解いただけるように努めています。